

## 事業提案企画書

(記載が複数ページにまたがっても差し支えありませんので、できるだけわかりやすく具体的に記述してください。ただし、この企画書はA4サイズで4ページ以内で記述願います。)

提案団体名	特定非営利活動法人グリーンシティ福岡
提案事業の名称	志賀島歴史と自然のルートづくり事業
提案事業の目的	志賀島の歴史的・自然的資源を活用し、市内外からの来訪者にとって魅力的な周遊ルートの管理作業を行うことで、交流人口の増加と地域の活性化を図る。また、地元ボランティアとの共働作業を行うことで、「地域の誇り」や「来訪者を迎えるマインド」の醸成を図る。
課題の緊急性・重要性(市民ニーズを含む)	<p>1. 解決する課題</p> <p>志賀島には「潮見展望台」や「万葉歌碑」、「火焰塚」など様々な歴史的・自然的資源が存在するが周辺の整備状況は十分とは言えない。島内の道路は隣接する民有地の樹木が生い茂って全体的に薄暗い印象となっており、設定されたウォーキングコースも樹木管理が行われなため通行不能となっている箇所もある。せっかくの地域資源もアクセスの問題からうまく活用できていない。</p> <p>また、潮見展望台で観光客にヒアリングを行うと「万葉歌碑を見に来たが案内が無くわかりにくい」との声があった。案内マップ・パンフレットの類も作られているが、観光客が気軽に利用できるようになっておらず、現地のサインとの連携も薄い状況である。</p> <p>志賀島の歴史的・自然的資源は遠方からの来訪者も惹きつける魅力的なものであるのに対し、アクセス道路の維持管理状況や案内サイン・マップの整備状況は、それに応えられていないと言える。</p> <p>2. 市民ニーズ</p> <p>志賀島の歴史的・自然的資源は福岡市内からの来訪者にとっても同様に魅力的であると言え、手軽に楽しむことができる観光スポットとして整備することは、市民ニーズに応えることにつながる。</p> <p>一方、志賀島の地元住民にとって観光地へのアクセス道路は生活道路であり、その維持管理状況は暮らしや生業に直結する問題となりうる。倒木や落枝が少なくなるよう管理することは重要な取り組みと言える。</p> <p>3. その他</p> <p>多くの農山村地域で課題となっている少子高齢化や農林地の管理放棄に加え、志賀島は福岡県西方沖地震による被害、西鉄バス路線の廃止検討といった出来事・動きがあった。このままであれば「地域の活力」は更に落ちていくと考えられる。志賀島地域の活性化のためには、この数年が非常に大切な時期であると考えられる。</p>

<p>問題解決の手法・形態</p>	<p>1. 課題解決の方策</p> <p>地元ボランティアと造園・里山保全の専門家との共働作業による道路周辺部分の樹林地管理を行い、志賀海神社から火焰塚を経て潮見展望台へ続くルートの景観及び利便性を高めるとともに、案内サイン・マップ等の整備を前提とした現況調査をすることで、来訪者へのサービス向上を図る。</p> <p>1) ルートづくり事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ルート状況調査（現地調査と対象樹木の作業区分）</li> <li>・樹林地管理の共働作業（地元ボランティア、造園技術者、ボランティアリーダーによる作業と学習の場）</li> </ul> <p>2) 案内・広報事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サインおよびマップの現況調査</li> <li>・ガイドイベントの実施</li> </ul> <p>2. 問題解決の先駆性・先進性・アイデア・工夫</p> <p>1) 地元ボランティアと専門家、ボランティアリーダーによる共働作業</p> <p>地元ボランティアとの共働作業を行うことで、住民の意識醸成を図る。充実した学びのある共働作業となるよう、造園や里山保全の専門家だけでなく、コーディネート役としての保全ボランティアリーダーが参画する。</p> <p>2) 地元ボランティアと造園技術者の作業区分</p> <p>ルート状況調査段階では、伐採対象樹木の作業区分を下記の通り行い見通しを立てるとともに、作業の安全性と効率を確保する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>A：保全する樹木（赤色）</li> <li>B：地元ボランティアによる伐採作業を行う樹木（緑色）</li> <li>C：造園技術者による枝払い・高所作業を行う樹木（青色）</li> <li>D：造園技術者による伐採を行う樹木（白色）</li> </ul> <p>地元ボランティア個人でも作業の見通しと成果がわかりやすくなると思われる。</p> <p>3) 地元と連携した案内・広報事業</p> <p>サイン・マップ等については、既設もしくは検討中のものが複数あるため、まずは現況の把握を行う。また、広報の一環として、地元の歴史研究会の協力を得て、整備を行うルート沿いの史跡を題材としたガイドイベントを行う。</p>
<p>市の役割・責任分担</p>	<p>1. 提案団体が果たそうとする役割</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 事業全体の計画</li> <li>2) 造園及び里山保全等に関わる専門技術の提供</li> <li>3) ボランティアリーダーの派遣と 地元ボランティアの共働作業におけるコーディネート</li> <li>4) 案内・広報事業に関する調査・取りまとめ、イベントの企画運営</li> <li>5) その他、必要と考えられる事務作業など</li> </ol> <p>2. 福岡市に期待する役割</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) ボランティア募集のための広報</li> <li>2) 剪定した樹木枝等の処分（緑のリサイクルセンター）</li> <li>3) 地元との共働のための働きかけ</li> <li>4) 市施設の提供（公民館を利用したの打合せ・説明会など）</li> <li>5) 市の関連事業の情報提供（資料提供、上位計画との整合性等）</li> </ol> <p>3. 福岡市の担当の担当部署と何らかのかかわりがある場合は、その部署名、経緯及び内容</p> <p>東区企画課 花と緑のボランティア活動に関する専門技術に関する相談など。</p>

<p>共働の必要性 (共働事業の効果・利点を含む)</p>	<p>1. 共働の必要性          地元ボランティアとの共働作業には、造園や里山保全に関する専門技術及びボランティアコーディネート技術の二つの専門性が必要である。一方で、民間の団体が複数の民有地にまたがる樹林地を管理していくのは、地権者や地元住民の信用・信頼の点で非常に困難である。福岡市との共働事業とすることで、地元からの信用・信頼が得やすくなると言える。          本事業は、地元からの「信頼」と作業とコーディネートの二つの「専門性」を併せることで、はじめて実施できるものである。</p> <p>2. 共働することによる相乗効果          地元ボランティアが作業に参加することは、外部の専門家と地元住民がお互いに学び合いながら「地域の良さ」に気づくという点で「地元学」と同様の効果があると期待される。地元住民、福岡市、NPO の三者がそれぞれ、「地域の誇り」や「来訪者を迎えるマインド」を獲得する点が共働による最大の効果と考えられる。</p>
<p>事業の内容</p>	<p>○ルートづくり事業          目標 来訪者も生活者も使いやすい島内のルートづくり          成果 志賀海神社から潮見展望台までのルート整備          内容 志賀地区から潮見展望台までのルート及び周辺観光スポットに隣接する樹林地で、ルートにかかったり視界を遮る樹木や倒木の恐れのある樹木を対象に地元ボランティアと共働作業で伐採管理する。これにより車も人も通りやすい、季節感あるルートを生み出す。          地元ボランティアとの共働作業は10回程度を予定。ボランティアでは作業困難な箇所については、造園技術者が別途作業を行う。          ・ルート状況調査（現地調査と対象樹木の作業区分）          ・樹林地管理の共働作業（ボランティア、造園技術、ボランティアリーダーによる作業と学習の場）          実施日程 平成21年4月～平成22年2月          参加予定数 指導者 のべ50名（5名×10回）          地元ボランティア のべ100名（10名×10回）          実施場所 福岡市東区志賀島内の樹林地          予算額 2,319,500-</p> <p>○案内・広報事業          目標 来訪者にもわかりやすい歴史・自然情報の提供          成果 既設サインおよび案内マップ等の現況資料          ガイドイベントの開催（福岡市民の参加およそ50名）          内容 初年度の取り組みとして、既設サインの現況調査を行うとともに、案内マップ・パンフレット類の整備状況を調査・整理する。マップ等発行物に関しては、地元グループの協力を得ながら収集する。次年度以降にサインもしくは案内マップ等の整備・制作を目指す。また、地元の歴史研究会のガイドボランティアと共働し、志賀海神社から火焰塚、潮見展望台までのガイドイベントを開催し、整備したルートと周辺の史跡・観光スポットの広報を行う。          実施日程 平成21年4月～平成22年3月          予算額 522,500-</p>

事業の実施体制	<p>1. 総括責任者_____志賀 壮史</p> <p>2. 個別事業責任者          ルートづくり事業____真武 弘延          案内・広報事業_____志賀 壮史</p> <p>3. 事業実施にあたっての専門性やノウハウ          グリーンシティ福岡会員の持つ主な資格・認証等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・造園施工管理技士</li> <li>・土木施工管理技士</li> <li>・樹木医</li> <li>・環境カウンセラー（市民部門）</li> <li>・二級ビオトープ計画管理士</li> </ul>
事業スケジュール	<p>ルートづくり事業</p> <p>4月～ 6月 地元との調整・準備  7月～ 9月 ルート状況調査  10月～12月 地元ボランティアとの共働による樹林地管理  1月～ 3月 地元ボランティアとの共働による樹林地管理</p> <p>案内・広報事業</p> <p>4月～ 6月 地元へのヒアリング・準備  7月～ 9月 サイン現況調査、マップ類の収集  10月～12月 ガイドイベント企画、サイン・マップ調査取りまとめ  1月～ 3月 ガイドイベントの広報、開催（3月予定）</p>
地域や他団体との連携	<p>ルートづくり事業では、地元ボランティアの公募を行う。その際、自治会及び老人会、漁協等を通じて募集し、樹林地管理の作業日程等は各団体と事前に検討・調整した上で決定する。</p> <p>案内・広報事業では、資料収集等で協力を得るとともに、歴史研究会から講師及びガイドボランティアを招いてガイドイベントを開催する。</p>
事業の展望及び今後の活動展開	<p>「樹林地管理」の視点では、島内の他の場所の樹林地管理について必要性を診断し、順次取り組んでいくことが考えられる。また、潮見展望台近辺は太径の高木が多いことと、国定公園の眺望に関わるという点で、慎重に調査と検討を進めながら2年以上のスパンで樹林地管理を実施していくことが必要である。</p> <p>「案内・広報」の視点では、初年度のサイン・マップ等の調査を受け、必要な整備・制作を行っていくことが考えられる。また、ガイドイベントについては、ガイドボランティアの活躍の場として定期的に行っていくことが期待される。将来的にはモニターツアーやワーキングホリデーの受け入れといった取り組みが考えられる。地元との活動を積み重ねる中で検討していくものとする。</p>